

在ムンバイ日本国総領事館海外安全対策情報
平成27年度第4四半期（平成28年1月～3月）

1. 治安情勢

(1) 犯罪統計

ムンバイ市警察本部は、2016年1月1日から2月29日までに認知した犯罪件数について統計を発表した。主な犯罪の認知件数は以下のとおり。

○ 殺人	27件	(前年同時期対比 +5件)
○ 強盗	107件	(同 -27件)
○ 傷害	735件	(同 +48件)
○ 恐喝	39件	(同 +3件)
○ 強姦	135件	(同 +32件)
○ 窃盗	1,081件	(同 +111件)
○ チェーン・スナッチング(※)	142件	(同 -28件)

(※) 女性が首等に身につけている貴金属をひったくる犯罪

ムンバイ市警察はパトロールを強化して、街頭犯罪の検挙を強化しており、女性等を狙ったひったくり事案は減少しているが、概して殺人、強姦といった凶悪犯罪が軒並み前年比増となっている。今期については単独の邦人旅行者を狙った睡眠薬強盗被害が相次いで発生しており（下段参照）、親切に近づいてくる者に対しては不用意に誘いに乗らず、飲食物を勧められても断るといった毅然とした態度を保つことが重要である。

(2) グジャラート州情勢

3月6日、グジャラート州当局は、パキスタンのテロ組織「ラシュカル・エ・タイバ (LeT)」及び「ジャイシェ・モハンマド (JeM)」のメンバーと見られるテロリストが州内に潜伏し、テロのおそれがあるとして州内全域に警報（ハイアラート）を発令した。

翌日はヒンドゥー教の祭典「マハ・シヴァラートリ/Maha Shivaratri」であるため警戒が高まったが、祭典が終了し警戒が解除された後も引き続き空港、駅及び重要施設に対する警備強化が実施されている。

2. 一般犯罪情勢

殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

ア 殺人

邦人被害の事件は認知していない。

イ 強盗

- 2月中旬、邦人男性旅行者がチャトラパティー・シヴァージー・ターミナス (CST) 付近で親しくなった自称スリランカ人男性から勧められたオレンジジュースを飲んだ後意識がなくなり、旅券その他貴重品を窃取された。
- 2月中旬、ムンバイ市ダダール地区で邦人女性旅行者が自称スリランカ人に睡眠薬入りと思われる飲料を勧められ、意識を失っている間に現金（5万円相当のUSドル）、クレジットカードを窃取された。
- 2月中旬、フォート地区観光中の邦人男性旅行者が自称バングラデシュ人男性と親しくなり、一緒に行動をするうち経緯は不明であるが意識を失い、その間に所持品を窃取された。

ウ 強姦

邦人被害の事件は認知していない。

3. テロ・爆弾事件発生状況
期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。
4. 誘拐・脅迫事件発生状況
期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。
5. 対日感情
良好である。